

始



特 276

530

台南とその附近

鉄道部

驛頭から、鎮座通りから、鳳凰樹の並木から、軽やかな住人の囁きは、爽風の遊覧都市臺南を渡ってひびく。而も、歴史はかなし三百年、安平の潮鳴りに、ウトレヒトの草に赤炭権の月に鄭成功の覇業の影々が傳はれる。夏草やつつものどもが夢のあと。

……臺南市……

……沿革……此の地の開發は明の萬曆年間（250年頃）漢族の移住に始まり、其の後約50年天啓4年（2234年）和蘭人が此の地に據つてプロビデンチヤ城を築き政務の廳としてから市街の面目を具へるに至つた。當時南滿に李自成の亂があつたので良民多數本島に移住し來り一時は人口10萬を超えた。彼等は城外に市街を作り和蘭人と雜居し、商業を営む傍ら漸次附近の開墾に著手し、後永曆15年（2276年）鄭成功が和蘭人を驅逐して此の地に據り、プロビデンチヤ城を承天府と改め、鄭氏三世の府と定め、其の子經は十字街を設けて市街を東安、西定、寧府、北鎮の四坊に分け最初の市區改正が行はれた。康熙22年（2343年）清の領となつて、臺灣府、海防廳、臺灣縣を置き全臺の首府となり、康熙61年（2382年）朱一貴の亂後城壁を作り、更に乾隆50年（2445年）には大學士福康安に依つて有名な半月城が築かれた。斯くて康熙23年（2344年）より光緒11年（2545年）迄200有餘年の間、全臺の首府として繁榮を極にしたが同年臺灣を一省とし、省城を臺北に移して行政の中心としたのである。

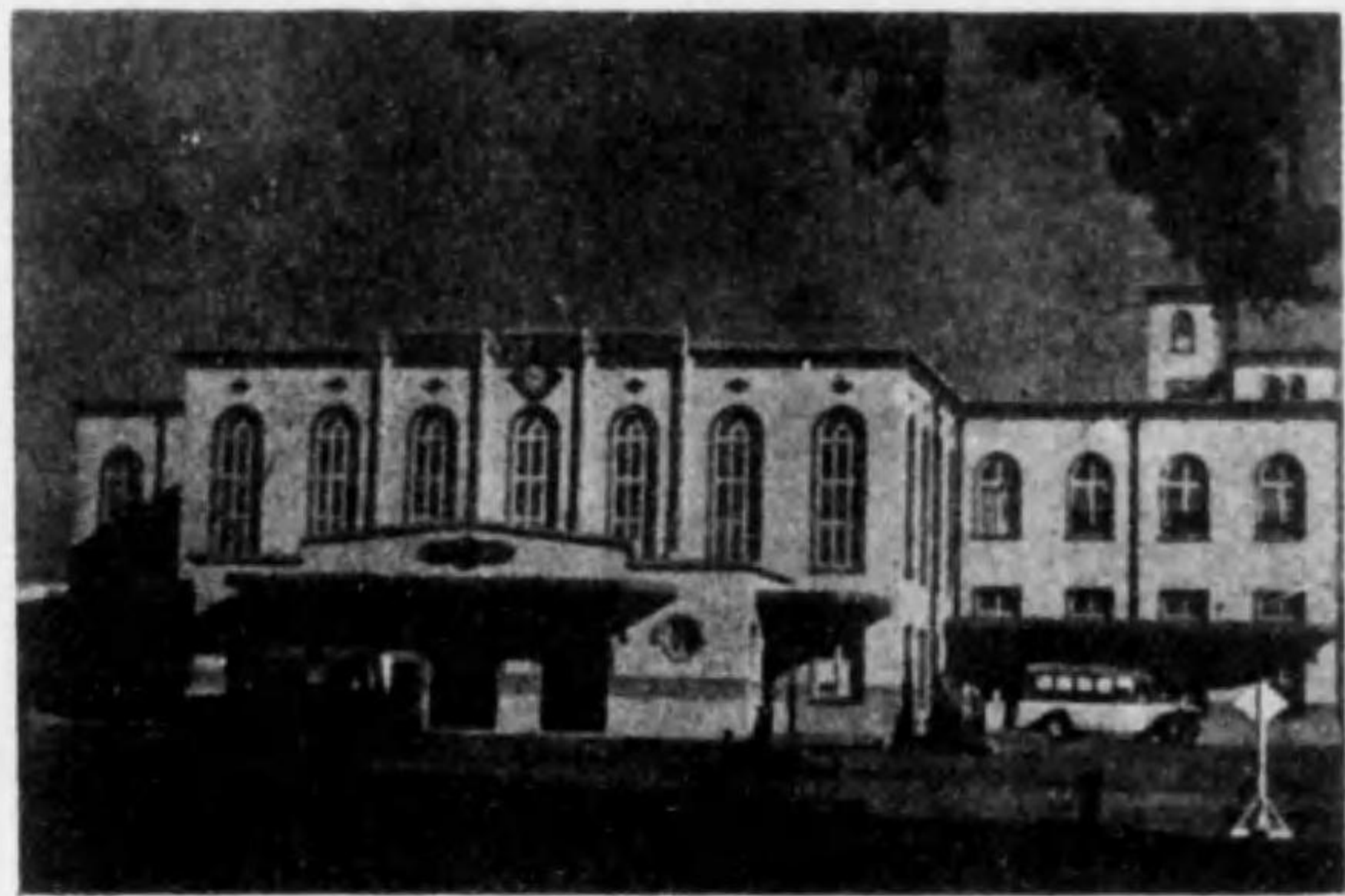
領臺後明治23年臺南縣を置き、同34年臺南廳に改め大正9年地方自治制度編定とともに新に市制を布き同時に臺南州廳を設置した。其の間改設當時の兵營と明治34年の市區改正計畫の施行とに依り南大門、大東門、小西門を残す他の樓門城壁を概ね撤去したので市街の面目は一斬された。今は安平街及び附近部落を合し本島第二の都會として其の發展を誇つてゐる。

人口 116,491人 (内地人 15,981人)

視察順序……
 自動車 5分 臺南神社 5分 孔子廟 5分 開山神社 7分 五妃廟 (15分) 糖業
 自動車 15分 法華寺 20分 ゼーランドイヤ城址 徒歩 臺灣史料館(製糖會社) 20分
 自動車 20分 天后宮 徒歩 關帝廟 5分 赤崁樓 15分 開元寺 10分 公園 5分 産業
 徒歩 5分 館

……臺南神社……(驛頭からタクシー50錢5分)南門内にあり、別格官幣中社で北白川宮能久親王を奉祀する。明治23年親王は近衛師團長として本島を御征討遊ばされたが、たまたま颯氣の御願のため同年10月28日當神社境内にある元臺南の豪族吳汝祥の家で薨去遊ばされた。全島平定の後地方官民均しく親王の御遺跡を道標し奉り永く此の御遺跡を保存することを計り、吳汝祥は其の建物、墓所をも併せて官に寄附したので、當時親王の御遺跡に充てさせ給ふた箇所を勉めて遺蹟を損せぬ様に注意し、御遺物と共に鄭重に之を保存し、其の領域を擴張して拜殿を建立し、明治35年1月からは臺灣神社附屬御遺跡所として毎年大祭が行はれてゐたが、地方官民は更に御遺跡地に神社建立を切望し、大正9年工を起し、同12年本社が建立され、同14年官幣中社に列せられ昭和11年末には瀟灑な外苑も完成し、神威煥増すに至つた。

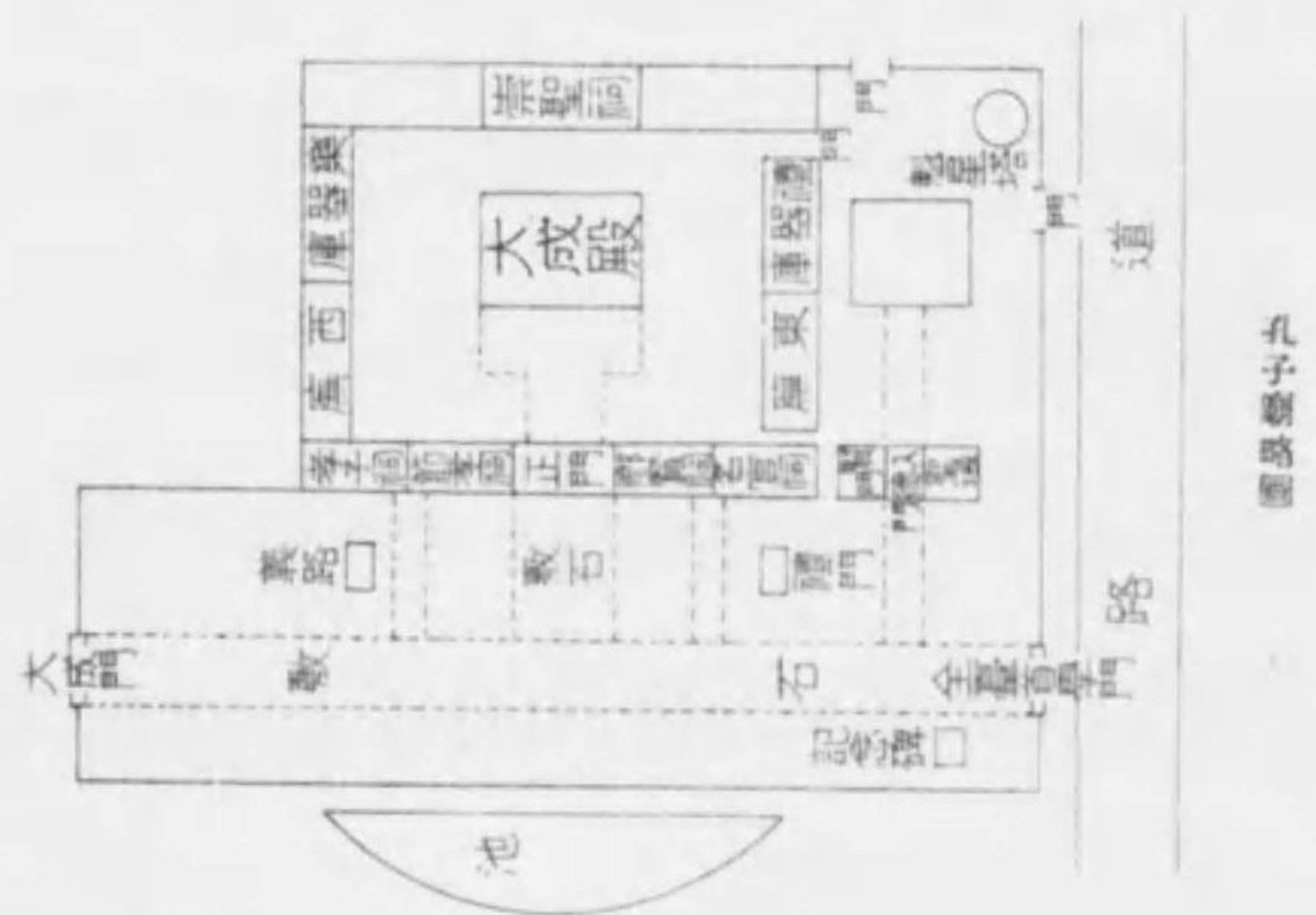
……孔子廟(文廟)……幸町にあり、寛文6年(清の康熙5年、皇紀2326年約270年前)鄭成功の參軍陳永華の勳進により建設したもので、當時は臺灣の國學であつたが、鄭成功の子經、覆滅と共に廢圮するところとなつた。貞享2年(康熙24年)清の巡道周昌等が其の舊址に就て造營し、臺灣府學と爲し、大成殿及東西兩廡を改造し、大成殿の南に棧星門、北に啓聖祠(後の崇聖祠)を建設した。明治22年臺南府學となり外門に全臺首學の扁額をかかけた。大正6年本廟の改築に取りかかり、同7年3月竣工、大成殿東西兩廡、崇聖祠、棧星門、明倫堂、文昌閣、名宦祠、節孝祠、泮池、禮門、義路、兩大成坊、大東門等に改築を加へ廟觀を整へた。大成殿には正面に「至聖先師孔子神位」を安置し、東には「復聖顏子神位述聖子思神位」を西には「宗聖曾子神位、亞聖孟子神位」を東西の兩廡には十二哲六十二賢人の位牌が安置してあり、春秋二期六府の禮を以て釋奠が舉行される。



……臺南廳……



……安平風景……



孔子廟略圖

……孔子廟の樂器……昔清朝時代には孔子廟に樂局といふ制を置き、其の基本財産である田園からの收穫物を以て樂器を購ひ、或は修理し來つたものである。帝國領臺後此の制は廢されたが樂器は依然廟内の祀樂庫に格納保存され、祭典當日聖樂を奏するのに使用されてゐる。聖樂と云ふのは孔子の遺樂と稱せられるもので、樂器、樂調、樂譜總て昔通のものとなり頗る古風清雅なものである。臺灣聖廟考に載する處の樂器の種類を擧げて見ると、鼓五種、鐘五種及瑤、琴、瑟、笙、簫、篪、笛等二五種で、古代から臺灣に能く保存され考古學上から見ても參考となるものが尠くない。

……開山神社……開山町にあり、臺灣開拓の始祖鄭成功(國姓爺)を祀る。約270年前鄭成功の安平城中に近くや、其の功徳を讃仰して一小祠を建立して成功の靈を慰め、開山王廟又け開臺聖王廟と稱へた。けだし開山とは臺灣の江山を開拓したとの寓意と思はれる。明治6年、清帝は特に忠節の確證を賜ひ、遷域を擴張して造營工事を起し、中央を正殿として王の聖像及神位を、其の左右に甘輝、張萬禮二將軍を祀り、東西兩廡には部將114名を從祀し、後殿には王の生母田川氏を祀り、左に監王祠(鄭克塽を祀る)右に寧靖祠(寧靖王及其の五妃を祀る)を設け、延平郡王祠と改稱されたもので、明治30年1月13日縣社に列せられた。現在の社殿は大正4年4月竣工した内臺折衷式である。

……五妃廟……桶後橋にあり。大榕樹の下に「寧靖王從死五妃墓」と刻んだ墓石があり、傍に五妃廟がある。天和2年(約250年前)清の提督施琅の大軍を澎湖島に防いで之に破れた鄭軍の悲運を痛嘆した寧靖王朱術桂は意を決して死を其の五妾袁氏、王氏、秀姑、梅姐、荷姐に告げ、其の欲する處に従はせたが、五妃は固く節を守り、王の自刎に先立つこと一日、從容として中堂に殉死した。里人或は五烈墓とも云ふ。

……臺灣總督府糖業試驗所……竹篙厝にあり、昭和7年8月設けられたもので、臺南本所の面積98ヘクタール、育種、耕種、製糖化學、農藝化學、病理、昆蟲の各科に分れ、甘蔗に關する試験研究に當つてゐる。尙高雄州萬丹庄に甘蔗の交配圃場33ヘクタールを持つてゐる。

……法華寺……桶後橋にあり。明末の舉人李茂春亂を避けて渡臺し、此の地に茅屋を

結んで夢蝶園と稱した遺址である。貞享元年(約250年前)臺灣府知府蔣斌英(しょういくえい)はこの古跡を保存せんがため一寺を建て、法華寺と稱し、境内には多種の花弁を植え、池を作り、幽雅な風情を見せてゐたが、今は荒廢して昔日の觀を偲ばしむるに過ぎない。

……**ゼーランディア城址**……安平にあり。寛永7年(皇紀2290年約300年前)和蘭人の築いたゼーランディア城の跡で、本城を俯瞰する近くの小丘にウトレヒトと名附ける小石塔を設け、且つ本城の北方約60米を距てて海濱に沿つた堡壘を築き之を城の西南及北角に接続し、その兩角に巨砲を据えて本城の防備とした。城は基地方276丈6尺高さ3丈餘あり、其の材料はパタピヤから取り寄せたものと云はれてゐる。寛永8年濱田彌兵衛等が長崎商人のために蘭人の暴虐を復讐したのは此の城での事件である。寛永15年2月(皇紀2321年)鄭成功は兵船350、兵4萬を率いて澎湖島を發し、安平の鹿耳門に上陸して不意にプロビデンティア城を襲うたので、守將バレンチンは戦はずして降つたと云はれる。こゝに於て蘭人はゼーランディア城を死守すること7箇月、漸く和を請ひ、領事コエツト等はパタピヤへ引揚げるに至り、成功はゼーランディア城を安平鎮と改稱し内城を改築して宮殿とし居城に定めた。この當時は臺灣と海濱を隔てて東西に相對してゐたものである。翌年5月、明の末帝永明王反臣の爲に死し、明の正統斷絶するに遇ひ、成功は憤慨の餘り病を得て此の城に卒した。天和3年(皇紀2343年)7月、鄭氏亡んで清領となるに及び協領署となり、年々風災等のため荒廢し、後更に幾多の變遷を経て城の遺跡は全部破壊され、僅かに當時の一部を残すに過ぎず、今は遺跡中に税關俱樂部及官舎があり、砲臺は領臺後修築して安平税關として砲臺を設けてゐる。尙この石材及煉瓦は億載金城の建築材料にされた。

……**臺灣史料館**……ゼーランディア城址の前にあり。昭和5年10月設立され、同7年4月より公開された臺灣郷土史料に依り臺灣文化の變遷を物語る歴史館で、陳列史料千餘點に及び豊富な種類を誇つてゐる。殊にゼーランディア城築造の由來、濱田彌兵衛安平討入の状況、鄭成功和蘭人討伐の經過、其他清朝時代の古文書古碑の拓本等が詳細に説明されて居り、本島歴史研究家の好參考史料館である。

……**臺灣製鹽會社**……大正8年資本金250萬圓で創立され、鹽田面積782甲餘天日鹽及煎煮年產43,000萬斤にのほる。

……**總督府水産試験場臺南支場**……附近は廣大な魚塭(きよおん)で、虱目魚(さばひー)、ウメエビ、ノコギリガザミ、鱈魚(れんひー)、草魚(つあうひー)、鯉魚(れーひー)等の養殖をしてゐる。(尙安平運河の南側は鹹水養魚、北側は淡水養魚が行はれてゐる)

……**億載金城**……明治7年牡丹社討伐に西郷從道侯が臺灣征討の軍を率ゐて來るとの報に清の總領事沈葆楨が激怒し、日本に對する防備の爲ゼーランディア城を破壊して其の石材及煉瓦を以て築城したもので、明治8年竣工、當時大砲5門、小砲4門を備へ臺灣安平水師副將周振邦以下兵300名をして安平運河の防備に當らしめたものである。後明治25年5月領臺當時劉永福等政府の命に服せず柯任貴以下500餘名が之れに據つたが我が軍艦の發見するところとなり、その砲彈を見舞はれて遂に降服した遺蹟である。

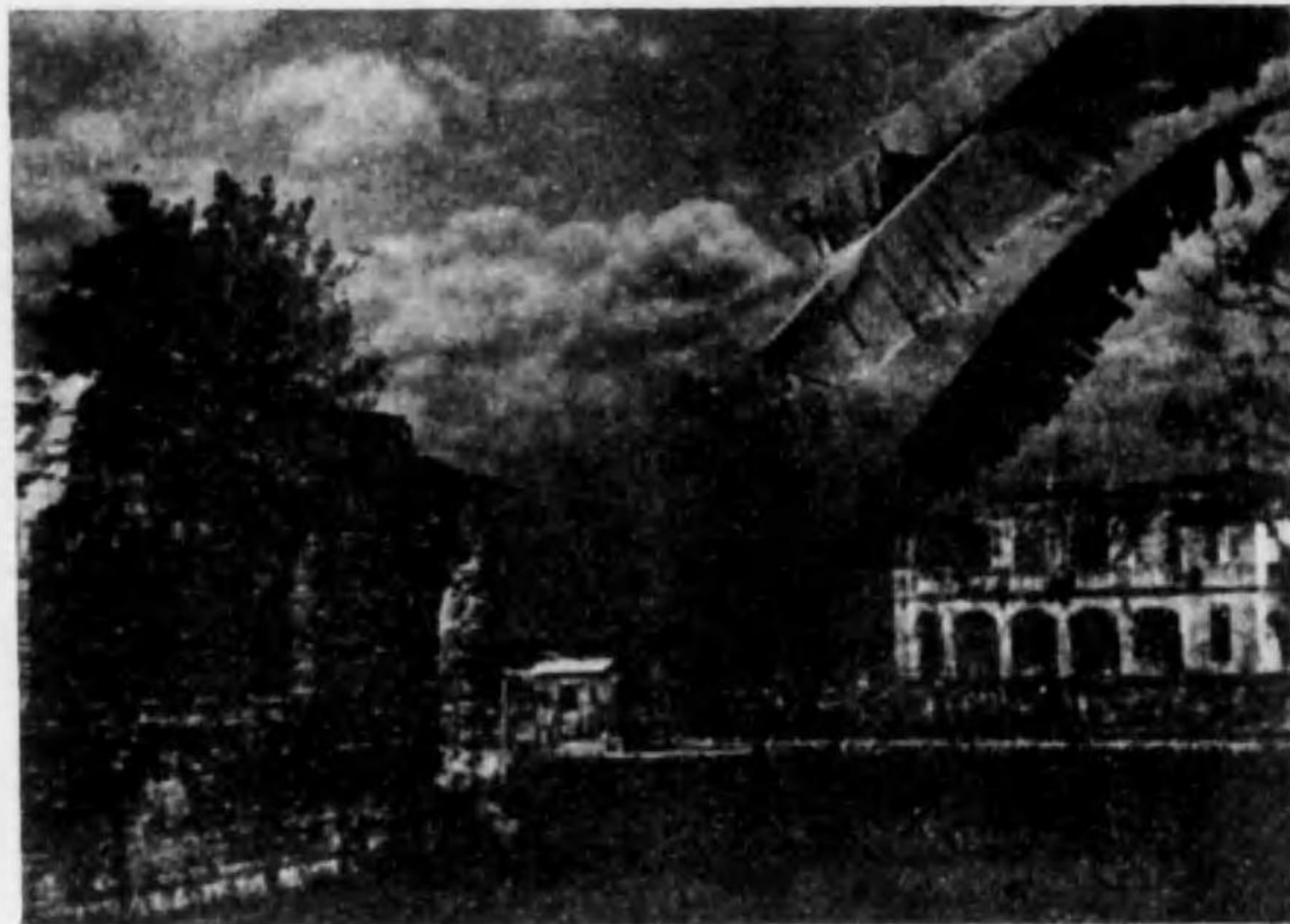
今は僅かに堅牢な煉瓦壁の洞門の一部が残るばかり、洞門の文字は沈葆楨の書。

……**天后宮(媽祖廟)**……臺南にあり。明の寧靖王朱術桂の故宅で、元子園亭と稱せられてゐた。清の康熙22年(皇紀2344年)施琅が舟師を率ゐて安平の鹿耳門に入つた時、神兵の前導するのを見たので、媽祖を祀る事を奏請し、翌23年巨費を投じて改築したもので、其の結構支那式の宮殿に則り壯麗を極めて居り、毎年舊3月中旬盛大な例祭が舉行される。

……**關帝廟(武廟)**……臺南にあり。清の康熙2年(皇紀2324年)鄭成功が關羽の忠烈を追慕して創建したもので中央に關羽の像を安置し左右に二臣を侍せしめてゐる。孔子廟の文廟に對し、關帝廟を武廟とも稱へてゐる。



— 赤 旗 樓 —



— 安平の印章 —

……**赤旗樓**……臺南にあり。慶安3年(皇紀2310年約280年前)和蘭人の建てた「プロビデンティア」城の跡で、紅毛城とも云ひ、これを政廳としてゐたのである。當時海水はこの樓の下まで来て居り、安平は離れ島で、前掲のゼーランディア城は紅毛城の外備であつたのである。

寛文元年(皇紀2322年約270年前)鄭成功が和蘭人を驅逐して此の樓を承天府とし、火薬、軍器を收容し、臺灣を治めたのであつたが、清の領有となり臺灣縣を置いて政治を執るに至つた。

明治12年文昌閣、海神廟を建て次いで産婆醫院(明治39年嘉義大地震の時崩壊)を設け領臺後陸軍病院、臺南師範學校に充用された事もある。即ち現存するものは城の基礎(パタピヤから取りよせた煉瓦を牡蠣灰で接合した昔の儘のもの)と、文昌閣、海神廟の二樓で、樓上からは臺南全市を眺める事が出来る。

……**開元寺**……三分子にあり。もと北園別館と稱し、永曆末年鄭成功の子孫が母董氏の爲に建設し以て老を養はせたと云はれてゐる。康熙29年(皇紀2350年約240年前)巡道王效宗が寺とし、海會寺と稱し50甲餘の寺田を寄進し、寶政12年(136年前)提督吟當阿によつて開元寺と改められた。臨濟宗の古刹として結構壯麗を極めてゐる。

……**陸軍墓地**……臺南公園の裏手鄭仔寮にあり。領臺後討蕃又は土匪討伐に参加従軍し、嘉義以南で名譽の戦病死を遂げた陸軍歩兵少佐河野五男外殉職軍人、軍馬2850名の遺骨が奉納されてゐる。

……**臺南公園**……大正元年から6年にわたつて築造されたもので面積14.8萬平方米、林泉の配合面白く運動場、招魂碑などがある。

……**安平運河**……臺南安平間の水運の便のために大正11年4月から15年8月に涉り工費70萬圓餘を費して出来たもので、延長4.145米、上幅36.3米、底幅27.2米、水深干潮時約2米、夜克、漁船の往來に賑はつてゐる。

……**臺南州立教育博物館**……幸町にあり。明治10年頃支那から渡來した廣東、廣西兩省の官民の會合所(兩廣會館)に建てたものである。陳列品點數約7,700種物及岩石類、植物類、鳥獸其他動物類、魚介其他水産物類、風俗及玩具類、圖書記録寫真其他、機械及模型類に分類されて居る。觀覽無料で開館時間は午前9時から午後4時迄。

……**水仙宮**……永樂町にあり。康熙54年(皇紀2375年)泉、漳二州の商人等の建立したもので、大禹天を主神に、伍員、屈原、王勃、李白を祀り、船舶の守護神として參詣者が多い。

……**臺南州産業館**……大正町にあり。州下産業の振興を圖るのを目的とし各種生産品の見本及參考品の蒐集陳列、商品の委託試賣、商業に關する各種の調査研究及紹介等を行つて居り最近マッゴー加工品、トマト加工品、龍眼罐詰に目覺しい發展を見るに到らしめた。尙即賣する土産品として金銀細工品、高砂漆器品、樟天然木製品、竹細工品、水牛角細工品、マッゴー罐詰、臺南名所寫真繪葉書、菊花木、袋蟲細工、大甲副製品、蛇皮製品、珊瑚文石、樟腦、ステツキ、人形其他がある。

……**臺南高等工業學校**……旭町にあり。昭和6年開校。機械工學、電氣工學、應用化學の三學科に分れ、工業臺灣を背負つて立つべき有爲の士を養成してゐる。

……**其他**……主なる建物としては臺南州廳(幸)市役所(大正)警察署(幸)新豐郡役所(東門)地方法院(南門)專賣局支局(楠橋)專賣支局安平出張所(安平)税關安平支署(安平)臺南醫院(大正)歩兵第二聯隊(旭)第一中學(鄭子寮)第二中學(竹園)第一高女(隸)第二高女(楠橋)師範學校(楠橋)長老教中學(後甲)長老教女學(後甲)臺灣日報社(大正)臺灣支店(大宮)三和銀行支店(本)彰化銀行支店(錦)商工銀行支店(白金)貯蓄銀行支店(錦)日本勸業銀行支店(本)等がある。

……參 考……

廟宇 宮古座(西門)、大舞臺(臺)、世界館(田)、戎館(田)

土産品 臺南州産業館(大正)ハヤシ百貨店(本) 店內に日本旅行協會の案内所あり) 金足成(本、金銀細工)、新高物産商會(錦)建鳳漆器物店(白金)五瑞第二支店(本、廣、

陶器類(六和商店(大宮、銀竹後))

旅館 臺南鐵道ホテル(臺南驛上。洋。室料3-5間。食卓朝80、晝1.00晚1.20) ツーリスト・ビュロー・ターコンニ(食付5間) 東屋(大正、内) 四和(和、内) 以上4-10間、ツーリスト・ターコンニ(和) 浪花(明治、内) 武庫(大正、内) 大和(本、内) 臺南ホテル(和、内) 正直(末廣、内) 以上2.5-7間。三河屋(和、内) 熊本屋(和、内) 赤坂ホテル(大正、臺) 那美(本、臺) 江尻屋(大正、臺) 新本島(和、臺) 大福ホテル(西門、臺) 福藏(大正、臺) 日の丸(和、臺) 以上2-5間。松金ホテル(末廣、内、臺) 1.5-4間

食事喫茶 鷺瀨閣(高砂)、小樽閣(明治)、一筆(明治)、鶯(和)、魚漁(和)、臺南樓(大宮)、たつた(大正)、ホーライ(北門)、サロン銀座(西門)、カピタン(末廣)、オランダ(本)、招仙閣(本)、親文樓(西門)、醉仙閣(西門)等

市内及近郊への交通機関 市内乗合1回10銭。タクシー-2人迄30銭、3人以上1人を増す毎に10銭増し。近郊へのバス又は局勢の他に

A 臺南タクシー-安定線(西門)西門前起點三峯店迄18銭20分。セ6-6時迄1時間毎、西迄30銭30分。港口迄35銭40分。安定迄35銭70分。以上1日4回) 麻豆線(西門前起點、善化迄35銭40分。麻豆迄60銭80分。何れもセ6-6時迄1時間毎) 安平線(西門前起點、安平迄12銭18分。セ7-10時半迄30分毎)

B 新化鐵道自動車-玉井線(花園小學校前起點、新化迄40銭40分)セ7-7時迄1時間毎、玉井迄は新化乗換1圓50銭2時間15分、1日5回) 楠西線(玉井から梓西迄30銭25分。1日6回) 關廟線(新化から關廟迄30銭40分。1日セ10時、ヨ3時の2回) 虎頭線(新化から虎頭迄10銭15分。日曜祭日のみ4回) 南化線(新化から南化迄15銭45分)セ7.40、ヨ3時の2回) 新市線(新化から新市迄30銭30分。1日12回) 山上線(新市から山上迄30銭40分。1日6回)

C 臺南自動車-新化線(大正町郵便局前起點、新化迄40銭45分。セ6-9時迄2時間毎) 橋頭線(橋頭迄30銭35分。セ6-6時迄1時間毎) 六甲線(六甲迄45銭50分。1日5回) 關廟線(關廟迄40銭40分。セ6-9時迄1時間毎) 大潭線(大潭迄40銭35分。セ6-9時迄1時間毎) 龍米(龍米迄10銭10分)

D 臺南自動車-仕里線(西門前公學校前起點、仕里迄60銭55分。セ6-7時迄30分内) 至10時迄1日2回) 善化迄65銭60分) 1日4回) 直通) 麻豆線(麻豆迄85銭80分。1日10回) 土城子迄土城子迄70銭60分。1日4回)

E 三好自動車-下盤線(西門前醉仙閣前起點) 迄9銭10分。善化迄19銭20分。善化迄24銭25分。1日14回、7-8月は19回。下盤迄30銭50分。直通1日2回)

F 長崎商會-安平海水浴場線(山町前起點、浴場迄5月-9月迄往復50銭)セ7.30-7.40時迄30分毎)がある。

…… 遊 外 ……

……海水浴場……安平(億載金城)に近く、例年5-10月にかけて開場され、休憩所も標的1000人の収容力あり、料金大人10銭小人、軍人、學生5銭)

……宮の森ゴルフリンクス……新市驛下車、北東7軒、バス30銭40分)新化郡山上庄にあり、9ホール、グリーンの生育すこぶる良好で各コースとも地化に富み、遠くは新高山を望み近くは海水浴を併催する景勝の地を占め、四季を通じてプレーに好適である。フキー(通常會員1個月4圓) 臺南ゴルフ俱樂部(臺南市外在住者1圓年12圓、島外在住者同6圓。入會金金4圓。グリーンフキー通常會員50銭、ビジター日曜祭日同、平日1圓。キャプテンフキー1ラウンドにつきA15銭、B12銭、C10銭。臺南からハイヤー40分。往復8圓)

……虎頭埭……新化街の東約3軒。臺南十二勝の一つで、虎頭山麓にあり。周囲約8軒。四時前後の水を湛え、池中の中島、虎頭山の様、毎夕飛來する数百の白鷺など風景すこぶる面白く、一日の清遊に適はしい名勝地である。新市驛新化間バス30銭20分。新化-虎頭埭間は日曜祭日に限り臨時(但し平日でも8人以上の客があれば臨時運送する)10銭15分。

……大崗山……岡山驛下車、北東7軒、バス50分、往復1圓。大崗山は岡山平野の東部に突起し、全山硬質石から成り標高315米、南は小崗山に連り眺望絶佳。中腹には超峰寺、龍湖庵、蓮華寺、彌全堂、修性庵、淨蓮堂の一寺と五斎堂が所在し、嶽の中に丹青の色彩かな夢を輝かせて居る。

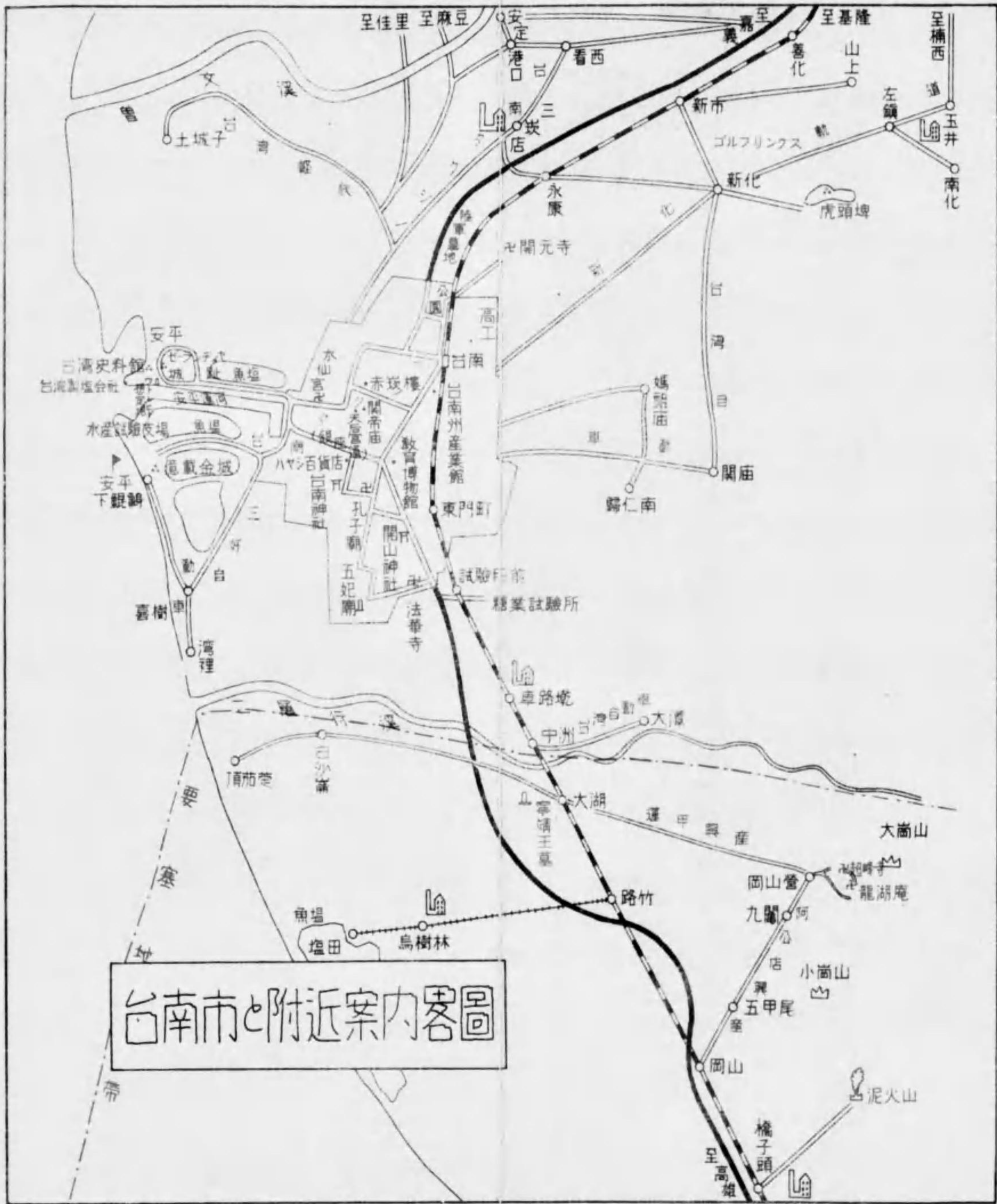
超峰寺は雍正年中(約500年前)清の名僧紹光禪師の開基にかゝり、乾隆23年臺南知府蔣允善が來山し、此の地は佛地なりとして佛堂を造営して超峰寺と號し、觀音佛祖を祀り今日に至つた。目下計画を集めて改修の計畫中で、就中三寶殿は其の完成の際には全島屈指の壯麗なるものたるべく、廟後の龍目泉は清水宮々として湧出し、萬病快癒の靈泉と云はれて居る。

龍湖庵は超峰寺の別院で、尼僧約100名。蓮華寺は同じく20名が修業して居り、何れも休憩所、宿泊所の設備があり、菜食料理の用意がある。尚山上には朱領洞、清涼洞、龍從洞、八音洞等の洞窟があり、殊に朱領洞の如きは、昔龍首朱領が包圍され、この洞中に餓死したと云はれ、入口1米四方、内部は40人を容れる廣さで探險の興盡きぬものがある。

……探訪旅行には臺灣遊覽券を……ジャパン・ツーリスト・ビュロー(日本旅行協會)島内各案内所で發賣する臺灣遊覽券(ターコン)を御利用になれば格安で便利です。

遊覽地としては本案内記中の

臺南市内遊覽、大崗山が指定されて居ます。



台南市と附近案内畧圖



竹山線日誌

終